

平成30年度 展覧会実績(本館・分館)

| 展覧会名 | 会期 | 場所 | 概要 | 入場者数 |
|---|-----------------|----|--|--------|
| 森山安英 解体と再生 | 5/19 ～7/1 | 本館 | 森山安英(北九州市出身、1936-)は、1960年代末から前衛芸術グループ「集団蜘蛛」のメンバーとして活動した後、1987年に絵画制作を再開した。森山については長らく全国規模の美術史からは見過ごされてきたが、近年、全国的な視野からの調査・検証が進められており、単なる一地方の枠にとどまらない再評価の動きがますます大きくなっている。一方、彼の絵画は全国的に見ても特異な表現であり、当館でも高く評価し、作品を所蔵している。本展では、森山の活動の全容をはじめて明らかにする。 | 3,084 |
| 写真展 岩合光昭の世界ネコ歩き | 7/14 ～8/26 | 本館 | NHK BSプレミアムで放送されている大人気シリーズ「岩合光昭の世界ネコ歩き」の写真展。本展のタイトルとなっている番組は2012年から開始。本展では、放送された国や地域の中から特に人気の高かった回を選び、番組のロケと並行して撮影した写真作品から岩合氏本人が厳選した約200点を展示する。各章では、現地では出会った印象深いネコに焦点を当て、それぞれのエピソードも紹介する。約1000平米ある美術館企画展示室の広い空間で、動物写真家としての岩合氏の神髄が現れた岩合ワールドを堪能していただく企画。 | 26,951 |
| 第74回 県展 | 11/20 ～11/25 | 本館 | 日本画・洋画・彫刻・書・写真・工芸・グラフィックデザインの7部門を展示。 | 2,098 |
| 没後80年 青柳喜兵衛とその時代 | 9/15 ～11/11 | 本館 | 青柳喜兵衛(1904-38)は、福岡県博多で生まれ、小倉、東京を拠点に活躍した洋画家で、そのほか、夢野久作、火野葦平などの小説挿絵や装丁の分野でも活躍した。青柳を取り上げた展覧会は、1976年に当館で油彩画に関して紹介した限りであり、画業の全容について紹介するのは本展が初めてとなる。青柳と周辺の人々との関わりから、34歳で夭折した青柳の多角的な創作活動を検証し、九州で文学、芸術を横断し花開いた文化の一端を紹介したい。油彩など約60点。 | 3,373 |
| ジョルジュ・ルオー 聖なる芸術とモデルニテ | 12/16 ～2/17 | 本館 | ジョルジュ・ルオー(1871-1958)は、近代フランスを代表する画家であり、20世紀最大の宗教画家である。本展では、ルオーの画業の真髄である「聖なる芸術」を取り上げ、ジョルジュ・ルオー財団の全面協力のもと、ヴァチカン美術館から《聖顔》など、長く門外不出とされてきた作品を世界で初めて一般に公開する。また、フランスのポンピドゥー・センターからも日本初公開を含む作品を多数出品する。まさに、ルオー展の「決定版」が実現する展覧会となる。 | 17,119 |
| 再興第102回院展 | 4/6 ～5/6 | 分館 | 院展の名で親しまれる日本美術院は1898(明治31)年、岡倉天心によって創設された研究機関である。天心の理念は、日本文化の伝統を踏まえ、文化財を保護しかつ芸術を奨励して未来に繋げる道を指し示すものだった。天心の死後、1914(大正3)年に再興され現在に至っている。102回目の本展では、日本美術院同人作家の新作をはじめ、受賞作品、および九州出身・在住作家の入選作品を含む約70点を展示する。長い伝統と歴史を誇る院展が生み出す日本画の世界を堪能できる機会を提供する。 | 6,270 |
| ブルーノ・ムナーリ | 6/23 ～8/26 | 分館 | ブルーノ・ムナーリ(1907-1998)は、イタリアを代表する芸術家、デザイナーである。その活動は、絵画・彫刻から、グラフィック・デザイン、インダストリアル・デザイン、絵本、著述、造形教育と広範囲に渡っている。イタリアと日本の美術館、コレクションが所蔵する。絵画、版画、オブジェ、映像、書籍など、約300点が集まる大規模な回顧展となる本展では、1985年にムナーリが日本で行った7種のワークショップをもとに、作品を7章に分けて紹介し、ムナーリの造形理念の再検証を試みる。 | 6,370 |
| 石川直樹 この星の光の地図を写す | 9/8 ～11/4 | 分館 | 世界をフィールドに活躍する人気写真家・石川直樹(1977-)の個展。22歳で北極点から南極点までを人力で踏破、23歳で七大陸最高峰の登頂に成功など、過酷な極地や山々に挑んできた石川。近年では、国内外を旅して、人類学や民俗学などの視点を取り入れた独自のスタイルの写真を発表している。北極圏や南極圏を撮影した写真や、洞窟壁画、環太平洋の島、日本列島の島々など、写真とK2遠征時の映像などを通して石川の活動を幅広く紹介する。 | 5,003 |
| 1968年 -激動の時代の芸術 | 12/1 ～1/27 | 分館 | 1968年は、20世紀における歴史の転換点と呼ばれてきた。日本だけでなく「1968」は、文化史のキーワードとして世界的に定着している。本展は、1968年からちょうど50年が経過した2018年に、この興味深い時代(1967-1970)の芸術状況を回顧しようとする試み。分野を超えた動きが数多く見られるのがこの時代の特徴でもあるため、現代美術を中心としつつも、周辺領域や一部サブ・カルチャーも視野に入れ、作品のみならずさまざまな資料や写真もあわせて展示し、この時代の熱い雰囲気の一部を紹介する。 | 2,611 |
| コレクション展Ⅰ 特集 色と形にみる音のはじまり | 4/14 ～7/29 | 本館 | 「色・形・音」をテーマに、色彩や造形などの視覚効果だけでなくイメージをふくらませ、音や音楽を喚起させるような作品を厳選。 | 8,435 |
| コレクション展Ⅱ 特集 アメリカで活躍したアーティストたち 1960's-80' | 8/11 ～12/16 | 本館 | 1960年代から80年代にかけてアメリカを拠点に活躍した作家に焦点をあて、戦後アメリカ美術の動向を展望する。 | 12,234 |
| コレクション展Ⅲ 特集 浮世絵 色彩の変遷 | 2/9 ～3/24 | 本館 | 墨一色から多色刷りの錦絵へと発展し、輸入顔料による色彩革命を経て、飛躍的に豊かさを増した浮世絵の色彩表現の変遷をたどる。 | 開催中 |